

アイスフラワー

"Ice Flower" Number 6



バラとドライ素材との、幻想的な自然を立体表現に

幻想的な、でも自然界に確かに存在するような、バラと自然素材が共演したダイナミックな造形です。古い紙で基本的な風合いを求め、ドライ用のスポンジを中に貼ります。ポイントになるバラを挿し、強固の色のバラで平面全体を埋め、次にピンクのバラで立体構成。すき間にシャクヤク、実もの、数々のドライ素材を挿し、フルで留めて完成です。●バラ（エルトロ、ヒストリー、ダランブリなど7種）、シャクヤク（スモールボタン）、アジサイ、コケはか

point



アイスフラワーのバラの魅力が、ぎゅっと凝縮したような造形。なんと7種類ものバラが、さまざまな主張をしながら、ドライの素材と自然に溶け合っています。

村松文彦

むらまつ・ふみひこ / 日本の花文化を牽引してきたフラワーアーティスト。「フローラル・アーツむらまつ」主宰。1999年インターフローラル・ワールドカップで世界チャンピオンを獲得。世界的にも活躍中。若手の育成にも情熱を注ぎ、みなく力を注ぐ。



1

Information

日本アイスフラワーアカデミーの認定教室が続々とスタート! 生徒を募集中です

アイスフラワーの基本から本格的な作品制作までみっちり学ぶことができます。憧れのアカデミーが本格始動しました。現在ベーシックコースと認定講師の資格取得を目指すマスターコースを一貫して受講できる、3日間短期集中コースを開講。本部教室に続き認定校としてフラワーサロン・ミキ アートスクールが1校開講しました。また全国各地で認定教室が続々とスタート。詳細はお問い合わせください。

講義についてのお問い合わせ

日本アイスフラワーアカデミー
電話 / 03-5298-3831
本部教室 / ティーズ (松尾 尤一さんのアトリエ)
東京都港区東新橋

- 9月の講義 / 9月26日～28日 ● 10月の講義 / 10月24日～26日
 - 11月の講義 / 11月17日～19日
- 認定校 / フラワーサロン・ミキ アートスクール 心斎橋本校
大阪府大阪市中央区西心斎橋
● 9月の講義 / 9月27日～29日
認定講師資格 / 取得されたかたは認定教室開設のため、アカデミーが全面的にバックアップします。

2

Information

アイスフラワーのご購入とお問い合わせ先

アイスフラワーはベルギーから直接入荷されます。教室に限りがありますので、購入ご希望のかたはもちろん、詳細は以下にお問い合わせください。

問い合わせ / 株式会社テンマック
ホームページ / <http://www.iceflower.jp>
電話 / 03-5298-3831

アイスフラワーのバラはたくさんの種類があります。そのバラの魅力をごまっとう凝縮したようなアートをご紹介します。村松文彦さんによるダイナミックで、かつナチュラルなバラと自然素材との共演。ナチュラルこそエレガント、という新しい扉が今、開かれようとしています。

花と書房・村松文彦 撮影・栗林成城 構成と文・近藤小枝

バラの新しい扉を開いて

アイスフラワーにはバラのペタルも多様に揃っています。当然ですが、すべてが繊細なバラの花びら。その自然な、優しい色を重ねてメリアに仕上げ、自然素材の枝やグリーンを背景に生かしました。ワイヤリングのテクニクがいらない、簡単なメリア。色もにじむことなく、しかも軽いため、ブーケに最適です。●ローズ(ダランプリ)、テングベリガなど、ドウダンツツジ、トクサ、ストローバイン

新しいエレガント。優しいペタルの色を重ねてメリアに



バラの花びらを、花の中心側のカーブに沿ってカットします。これにより、花びらがグルーで貼り付けやすくなります。初心者の場合はBのように花を丸ごと切っても。



台紙に、1の花びらを1枚ずつグルーで貼り付けます。台紙のほうにグルーを付けるのがポイント。きれいに仕上がります。台紙のサイズを変えれば、どんな大きさのメリアも。



メリアの頂点は、バラの1輪そのままを入れ込んで完成。裏は月桂樹の葉でカバーし、ハンドルを付けて美しく仕上げます。ブーケとして持たないような、フェルムの完成度。

「日本の梅雨時はどんな花にとっても大変だが、湿気にアイスフラワーは強いね。自然の花だから当然だけど、色がにじんだりしない。花の面白さは実際に制作してみないとわからない。僕はアイスフラワーに自然素材をもっと合わせてみたい」
新しい花に出会うと必ず、村松さんは楽しみながらその可能性を探ってきました。「今の僕が可能性を感じるのはバラのペタルです。意外かな。手軽で使いやすいうえ、創造的なデザインにもっと使っていきたいと思う」
村松さんによって、自然素材の流木やドライのグリーンと共演したバラ。ナチュラルこそ、エレガントに通じるというアイスフラワーの世界を予感させます。

ナチュラルこそ、エレガント。バラと自然素材を合わせて「アイスフラワーという花は、しっかり主張しているね、驚いたよ」と語るのは、村松文彦さん。日本に本格上陸したアイスフラワーを手元に置き、自分の目でここ数カ月その様子を観察しているのだそうです。
「日本の梅雨時はどんな花にとっても大変だが、湿気にアイスフラワーは強いね。自然の花だから当然だけど、色がにじんだりしない。花の面白さは実際に制作してみないとわからない。僕はアイスフラワーに自然素材をもっと合わせてみたい」
新しい花に出会うと必ず、村松さんは楽しみながらその可能性を探ってきました。「今の僕が可能性を感じるのはバラのペタルです。意外かな。手軽で使いやすいうえ、創造的なデザインにもっと使っていきたいと思う」
村松さんによって、自然素材の流木やドライのグリーンと共演したバラ。ナチュラルこそ、エレガントに通じるというアイスフラワーの世界を予感させます。